

Vol. 32 No. 3
2015. DEC



秋田県作業療法士会 印刷 川嶋印刷株式会社

発行 一般社団法人 秋田県作業療法士会 ホームページ <http://akita-ot.jpn.org/>

会 長 高橋 敏弘

編集 一般社団法人 秋田県作業療法士会広報部

〒018-5421 秋田県鹿角市十和田大湯字湯ノ岱 16-2

大湯リハビリ温泉病院 作業療法室・水原 寛

TEL 0186-37-3511 FAX 0186-37-3483

E-mail a-ot-kouhou@par.odn.ne.jp

事務局 〒010-0041 秋田県秋田市広面字屋敷田 25-2 セジュールエスト 105 号

TEL/FAX 018-837-0552

E-mail has80970@snow.odn.ne.jp

ー精神科デイケアについてー

横手興生病院 鈴木 新吾

私が精神科デイケアを担当するようになって3年目になります。それまでは、精神科作業療法で主に入院患者を対象としていましたが、こちらでは退院して地域で生活している方々に関わっています。

精神科デイケアは精神科通院医療の一形態で、入院治療に代わる身体的、精神的治療を自宅等から通院する対象者に実施するものです。これは、医師の指示の基に看護師、作業療法士、臨床心理士、精神保健福祉士がチームを編成して行われます。他のデイケアの種類として、介護保険の対象である高齢者対応のデイケア、デイサービスや病院で行われる重度認知症デイケアがあります。

精神科デイケアは地域で生活している方々が通ってきます。そして、プログラム（創作活動や料理グループからスポーツに至るまで幅広く用意されています）に参加し、他の通所者と交流しています。

通所者の参加目的は主に、生活リズムの獲得、単身生活の維持のため、余暇活動やレクリエーションの場、仲間との交流を図る場、病気の自己管理や回復に役立てるため、仕事の準備のため、社会参加の手段などが挙げられると思います。ただこれらは一言ではまとめられず、個人毎に幅広い目的を持っています。そのためデイケアでは、個人毎の目的を達成していく過程において適切に介入・援助することが求められると言われています。

前述のとおり精神科デイケアは、職員が多職種で構成されています。そのため普段の業務は、デイケア職員としての共通の仕事と各職種の専門分野を生かした仕事の二本立てとなります。専門分野を生かした仕事と言っても、それは明確に役割分担がされているものではなく、それぞれが出来ることを協力して行う必要があると思っています。

そのような中で、デイケアでの作業療法士としては、作業活動を治療手段として用いることが出来るという特性を活かして、プログラムの充実と個別のニーズに沿った活動の提供ができるように心掛けています。作業活動は誰もがやっていることなので対象者にとっても受け入れやすいものです。作業活動に取り組んでもらい、各種能力の維持・向上を図っていったり、その中で得られた情報や援助の方法を本人、家族や他の職種に伝えていき、対象者の生活がよりよいものになるようにサポートしていく事も考えています。

印象記 生活行為向上マネジメント

第2回実践者研修(事例検討)に参加して

秋田厚生医療センター 安藤 梢

平成27年10月3日、秋田大学医学保健学科を会場に行われた生活行為向上マネジメント(MTDLP)事例検討会で症例報告を行いました。

私自身、久々の事例発表会で発表までの間は多少の緊張感はありましたが、当日は発表者3名、講聴希望10数名と和やかな雰囲気、3グループに分かれてグループワークを行うことができました。

今回、私の発表では大腿骨頸部骨折術後患者に対してMDLPを使用した事例を報告しました。症例は屋外歩行や外出をしたいという生活目標があり、日常生活の自立と屋外歩行が可能になるという合意目標を設定しました。生活行為向上プランは、免荷中の時期から脱臼予防の動作指導ほか、荷重歩行開始直後から入浴動作や家事動作練習を積極的行いました。病院敷地内の設定ではありましたが、1時間程度の家事や買い物を行えるようになり、患者さんは自信をつけて自宅へ退院することができました。

MTDLPを使用して良かったことは、担当者自身が今後の流れを説明しやすいこと、患者自身がプログラムを理解しやすいこと、支援者同士が情報交換しやすいことだと思います。反面、MTDLPを使用することにあたり悩んだことは、コミュニケーションが取れない、病状把握や障害受容が困難である方は使用が難しいこと。マネジメントに理解があり、プログラムに協力的である方を選択することが必要で、患者選択に難渋しました。また当院は急性期病院のため、在院日数とOT開始から退院までの期間の短さ、院内という限られた環境で、希望に沿った課題とできない課題の選択をしなければならないこと、課題の個性の出にくさなどで考えてしまうことが多かったように思います。

グループワークでは、急性期、回復期病院、老人保健施設と各分野からの参加者で構成された5～6名で意見交換することになりました。質疑応答では、運動強度や病棟生活の様子、痛みの評価、基本課題と応用課題の比重、家族のケアや福祉用具の状況などの確認がありました。各グループからの意見では、リハビリ時間以外の時間の使い方の工夫、在宅で受けられるサービスの情報提供、家事内容をもう少し詳しく分析してプログラムに盛り込むこと、課題分析シート内容を充実させることなど、私自身が情報収集、評価や課題に不足している点を気付かせてもらうことができました。

なかでも今回のグループワークで印象に残ったことは、急性期病院で治療を完結できず、回復期病院や施設、地域に移行する際に、次の施設でどんな内容の申し送りを必要としているか話題になりました。何をやってきたかという治療内容も必要ではあるが、患者さん自身が何を望んでいるか、どうになりたいか、次の施設にどうつなげていくかが重要で、患者さんの思いを繋ぐ作業をより多く増やすことが求められていると学ばせて頂きました。

今回の事例では関わることはできませんでしたが、多くの患者さんは家族や地域を含めた包括支援を必要としていることが多く、マネジメント早期から担当者自身の広い知識や選択、判断力はもちろん必要であるが、急性期病院として可能な限り模倣環境を作り作業療法をすすめる工夫や、少しでも希望にあった内容やプログラムをすすめていけるように、できるだけ多くの支援者を巻き込んだMTDLPが必要であると思いました。

今回の参加者の皆様、グループワークの司会進行、総括を行って頂いた田村先生、佐藤先生、湊先生、ご指導ありがとうございました。

印象記 第26回東北作業療法学会に参加して

羽後病院 今泉 雄太

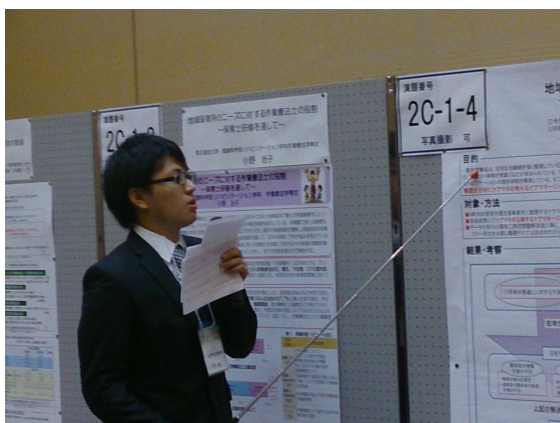
平成27年9月26・27日に青森県弘前市で、第26回東北作業療法学会が開催されました。今までは、聴講者として学会に参加していましたが、今回は初めて演者として参加しました。

私の発表は2日目であったため、1日目は一般演題と日本作業療法士協会会長の中村春基先生による特別講演を拝聴しました。一般演題の中で印象に残った発表は、弘前市立病院の今井晴彦先生による「積極的な姿勢制御課題がせん妄状態の軽減に影響した症例」でした。せん妄状態に対するアプローチに関して悩む事が多かったため、今井先生の発表の中で紹介された“せん妄状態を脳幹網様体の機能低下の影響と捉え、姿勢制御を通して賦活を図る”という視点は、今後のアプローチに活かしていきたいと思いました。

中村春基先生による特別講演は「広めよう作業の輪を～Only Oneの笑顔のために～」というテーマで行われました。先生がお話しされた中で印象深かったのは、今後生活行為向上マネジメントをすすめていく中で今一度、生活行為にしっかりと目を向けていかなければならないということです。日々の臨床において、自分自身のアプローチを再確認し、改めて対象者個々の生活行為に対しアプローチしていくということが重要であるということを確認しました。

2日目は竹田総合病院の長谷川敬一先生、函館脳神経外科病院の三上直剛先生による教育公演の後に自分のポスター発表でした。教育講演は「地域包括ケアにおいて作業療法士に求められる生活支援について」というテーマで行われました。講演の中で病院から地域生活へ戻る際に必要な情報の交換を、生活行為向上マネジメントの申し送り表を用いながら行っている事をお話されていました。自分の発表内容をまとめる中で、病院から地域に戻った対象者を包括的に支援していくにはどのようにしたらよいか、その中でOTはどのような役割を担えるのかということを考えさせられました。先生方の講演を拝聴し、円滑に地域生活をスタートしていくためには、OTとして生活行為を評価し、ケアマネジャー等地域生活を支える方々へ情報を伝達していく事が、重要であるという事を改めて感じました。

教育講演後、ポスター発表でした。1日目のポスター発表で、先生方の発表時の声の抑揚や間の取り方、更に効果的なポスターの使用の仕方など、内容だけでなく発表時の工夫なども念頭に置きながら拝聴していたので、自分の発表にも活かされるように望みました。発表は、地域リハビリテ



ーションの提供体制の構築に関する内容でした。質問者の方々からは内容に関する質問だけでなく、有益な提案や意見を多く頂くことができました。また、ポスター発表の時間以外にも発表内容について質問や意見を頂きました。その他、発表を通じて秋田県作業療法士会の先生方との交流を深めることもできました。本学会での発表を通じて、院内だけでは得られなかった貴重な意見を多く頂けたと思います。今回頂いた意見を基に、また地域リハビリテーション体制の構築に向けて努力していきたいと思います。

最後になりますが、発表及び発表に至るまでの準備では多くの壁にあたり大変な思いもしましたが、苦勞を越える程、遥かに多くの事を得られました。これも発表準備に際して助言・協力をして下さった方々や発表を聴講して下さった方々の暖かいご支援のお陰と深く感謝申し上げます。

印象記 東北作業療法学会に参加して

介護老人保健施設いこいの里 阿部 翔太

私は今回、他の施設や病院がどのような作業活動を行い支援しているのか、MTDLPについての発表や講演が行われ、さらに理解を深めるため東北作業療法学会に参加しました。

東北作業療法学会は9月26、27日に弘前文化センターで行われました。会場となった弘前市は大学時代に住んでいたもので、馴染みがあり久しぶりに訪れることもあって楽しみにしていました。ですが、学会には大学時代を通じても、参加したことがなかったため事前に配布された資料を読み、どのような雰囲気で行われるのだろうかという緊張感もありました。迎えた学会当日、緊張して会場に向かうと大学の同級生に久しぶりに再会することができ、お互いの近況を知ることで緊張をほぐす事ができました。

今回の学会では初日と2日目を通して口述・ポスター発表、福祉機器の展示があり、初日には特別講演、2日目には教育講演、公開講座という2日間の日程で行われました。口述・ポスター発表では症例検討や様々な視点から行われた研究についての発表をされており、発表に対して多くの質問が飛び活発なディスカッションとなっていました。口述発表には、大学時代にお世話になった先生方も発表されており、その発表内容を見て改めてすごい方達から講義をして頂いていたということを実感しました。また、特別講演ではご多忙の中、日本作業療法協会会長の中村春基氏から学会テーマでもある『広めよう作業の輪を～Only Oneの笑顔のために～』という題で、今後の作業療法の動向やMTDLPについて講演されました。今後のリハビリの動向として、地域包括ケアが挙げられ、職種別に質を高めていくこと、効率的・効果的に行わなければならないという課題が見えてきたと話され、利用者の自立を図るために各職種間でコミュニケーションを取り、連携を行わなければならないと感じました。

私は施設に従事してから半年が経ちましたが、日々仕事をしていく中で新たに発見し、勉強することも多くあります。今回の学会を通じて自分が施設内の利用者に向け、一人ひとりに適したサービスを提供しているかどうか見直し、気持ちを新たに一人ひとりの笑顔のために仕事に励んでいきたいです。

また、2年半後には介護報酬の改定が行われ、MTDLPの成果が問われます。MTDLPは、どの勤続年数でも同じ視点に立って対象者を見られるという利点があるため、微力ではありますが、私もMTDLPを通して作業療法に貢献できるように頑張りたいと思います。ありがとうございました。

シリーズ「作業療法と生活考」NO. 61

想像力と創造力

秋田大学医学部保健学科 金城 正治

我々は日常の生活で夜空を意識して見る事が少なくなりました。夜も蛍光灯の明かりの下で生活をしています。秋から冬にかけては、空が澄み渡って星がきれいに見えます。今の時期は、東の空に金星が肉眼でよく見えます。そして、近くに火星と、少し離れて木星が見えます。その周りには色々な星がちりばめられて、とても感動します。電気を暗くして、または少し早起きをして夜空を眺めるのもいいです。

星座は想像の産物です。今更ながら昔の人の発想力の豊かさに関心します。そして、西洋では星座も含めて神話の物語を作り出しています。日本でも多くの神話があります。どちらの神話も共通するところがあります。ある家族連れから高齢者まで参加しているセミナーで、一枚の絵を見て、物語を作ってみるという体験がありました。子供はどんどん物語を口にして話していきます。大人はきれいにまとめようとしてうまく作れない状況でした。

子供は想像力や創造力が豊かです。大人になるにつれて現実的になり、創造力に抑制をかけてしまい、広がりが少なくなる傾向があります。論理的に考えることも重要ですが、想像や創造とのバランスは大切です。

この想像力 imagination と創造力 creativity とは何でしょうか。「想像力」は現在自分の知識内にある事をもとにして心に思いを描く力、「創造力」は現在存在しないものを新たに作り出す力とまとめてあるの也有ります。「想像力は、心的な像、感覚や概念を、それらが視力、聴力または他の感覚を通して認められないときに、作り出す能力である。想像力は、経験に意味を、知識に理解を提供する助けとなり、人々が世界を理解する基本的な能力である」と Wikipedia では定義されています。これは人や周りの世界と出会うための能力でもあります。

学生やケースの方と話をしているても、想像力が働きます。これまでの経験や知識もありますが、話をしていると思いがけない発想や考えが浮かぶことがあります。会話はお互いの脳を活性化させることもあります。我々は、担当しているケースの今後の生活や将来をイメージした目標を立てる事になります。作業療法士にとって想像力はとても大事な能力だと思います。我々の生活は想像の連続です。これを意識するかしないかで豊かさが違ってきます。

「創造力は、新しいものを生み出すこと。創作や発明、あるいは新しい考え方など、オリジナリティの強いものに対し使うことが多い」と定義されています。解答が1つだけではないような課題における思考、すなわち発散的思考の能力と関係があるとされています。これは知能の高い人、特別な人や才能のある人を考えますが、考えること行動することを放棄していないことだと思います。想像力の先に、創造力もあると思います。

我々の生活は習慣で行動していることも多く、疑問を持つことも少なくなります。行動するには大切ですが、原点に戻って考える、その意味を考えるなどの習慣も大事だと考えます。この考える習慣や積み重ねが、想像力、創造力になり、新しいものを生み出していきます。

また、創造力を育むには退屈な時間必要だと言われています。

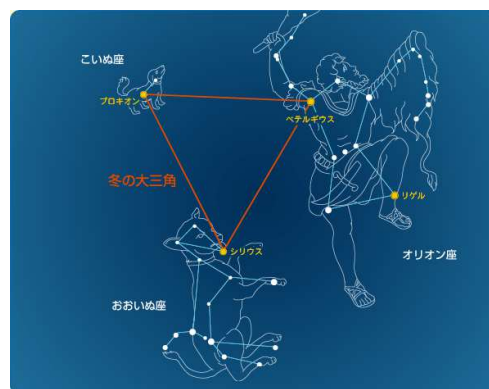
Children should be allowed to get bored so they can develop their innate ability to be creative, an education expert says.

退屈をマイナスと捉えるのではなく、意識して考え、行動に移していくチャンスです。子どもにはすぐ解答、指示をしないでください。待つことも教育です。そして、我々も時々、自分の生活を色々な環境に置いてみることもいいかと思います。興味をもつ、知らない世界をみる、知らない方とネットワークを持つなど、身近で出来るところから始まります。

認知症の方やうつなどの方は世界が狭くなります。その場にいることの安全、安心感を持つこともとても大事ですが、小さくてもよいので世界を少しずつ広げる、提供することも作業療法だと思います。病院や施設の中で、作業療法室をワンダーランド、心を刺激する環境にするのもいいと思います。作業療法は想像、創造の世界です。参考にオリオン座をのせました。

冬の星座 オリオン座(砂時計のような形で見えます)

オリオン(Orion)とは、ギリシャ神話に登場する狩人の名前です。ギリシャ神話の他にも、世界中に残る神話や伝説で、この星座を巨人に見立てています。オリオンの右肩に当たる赤い星はベテルギウス (Betelgeuse) といい、巨人の脇の下という意味です。左足に当たる白い星はリゲル(Rigel)。こちらは巨人の左足。オリオンのベルトの部分に当たる三つの星を、オリオンの三ツ星と呼びます。オリオンは類稀な美男子のはずですが、星座絵はゴツイおじさんです。



引用：<http://www.zero-co.com/seiza/guide/ori.html>

「世界から猫が消えたなら」

書評

著者：川村 元気

出版：小学館文庫

価格：620 円(税抜)

232 項

秋田県立リハビリテーション・精神医療センター 木村 佳奈

主人公は郵便配達の青年。死んだ母親が残した猫との一人＋一匹暮らし。しばらく体調不良が続き、いよいよ治らないので病院へ行くと、脳腫瘍で余命わずかという宣告を受ける。そんな主人公の前に、自称『悪魔』の自分に似たアロハシャツを着た派手な男が現れる。悪魔は、青年に「明日死ぬことを伝えに来た」と話す。愕然とした青年に悪魔は、寿命を伸ばす代わりに世界からひとつだけ何かを消してしまうと言った。始めは何が起きているのか分からなかった主人公であったが、その取引に応じることにする。消してしまうものは、悪魔がそのときの雰囲気や決めるという。青年は限られた命の中で、何を失い、そして何を得ていくのだろうか。

現代はものがいっぱいあって、食べ物は食べれば身になるし、洋服や靴なども手にいれれば自分のものになるし、捨てない限りどんどん増えていきます。大概のものは得ることによって、自分にとっていい意味でも悪い意味でもプラスとなることでしょう。しかし、ものがあふれていっぱいに

なっていくなかで、そのものの価値や大切に思う気持ちは薄れていってしまっているのではないのでしょうか。もし、何かを得るために、何かを失うとしたら、もっとそのものや人の大切さを考えるのではないのでしょうか。

最後にある中森明夫さんの解説に、『人生は短い。あなたに残された時間はそう長くない。余計なことで迷っているうちに大切な何かを失ってしまうー。』という言葉が記されています。私自身は、あまり悩まない、考えない方だと思っていますが、余計なことに時間を費やして、やらなければならないことを後回しにしてしまうことがちょくちょくあります。この本を読んで、月並みではありますが「時間は大切にしなければいけない」と思ってしまった。同時に、自分の家族や周りの人を大切にしようとも。

最後になりますが、この本は映画化されて 2016 年公開だそうです。私の地元函館でも撮影されていたようで、母が「函館公園で宮崎あおいちゃんがいたらいいよ」などと報告してくれていました。映像で見るのも良いですが、限りある人生のなかでちょっと時間が空いたときに、本を片手にお茶でも飲みながらゆっくり過ごすくらいの時間はあってもいいのではと思います。何かに使おうと思っていた時間は失ってしまうかもしれませんが、その代わりに、きっと何か大切なものを得ることができるのではないのでしょうか。

職場紹介

医療法人久盛会 秋田緑ヶ丘病院 佐藤 宏美

秋田緑ヶ丘病院は秋田市北部飯島地区の小高い丘の上にある病床数が 388 の精神科の病院です。昔からこの地で医療を行っており、昨年で開院 50 周年を迎えました。病棟の特色として精神療養病棟、精神科急性期治療病棟、特殊疾患治療病棟、老人性認知症疾患治療病棟、ストレスケア病棟をそろえております。また退院後にもフォローアップできるようデイケアもそろえ、さらに今年の 10 月 1 日から新たに認知症疾患医療センターが開設され、相談から入院・退院後まで幅広いケアを提供しています。

作業療法科のスタッフは精神科作業療法が作業療法士 4 名助手 3 名。病棟作業療法として精神療養病棟の各病棟に作業療法士を 1 名配置しており計 4 名、老人性認知症疾患治療病棟には専従の作業療法士を 1 名、デイケアにも作業療法士 2 名がおり、合計 11 名の作業療法士と 3 名の作業療法助手がそれぞれの場で業務にあたっています。2 年程前から当院では療養病棟に病棟作業療法士を配置しております。行動範囲が狭く病棟から出られない患者さんや人との交流が苦手な病棟内でも孤立をしている患者さんなど、通常の精神科作業療法プログラムでは関わりが難しい場合においても各病棟の特色を活かしながら病棟作業療法士が時間をかけアプローチを取り組んでいけるようにという考えを持っての試みです。また、患者さんの多くが慢性期かつ高齢化が進み、身体機能の維持や生活の質の維持・向上も求められている現状では病棟作業療法士存在は今後ますます活躍していくと考えております。まだまだ試行錯誤の段階ではありますが成果を得られるように継続していきたいと考えております。

作業療法エリアは作業療法室・多目的ホールがあり、さらに病院敷地内にグランドゴルフ場もあ

ります。グランドゴルフ場は外に出られる患者さんに限られてしましますが、運動会も行い芝生の上に座り応援したり運動をするなど好評を得ております。また多目的ホールは288.0㎡と広く高さやステージもあるためバレーボールなどの高さのあるスポーツやステージを使用してのカラオケ、行事も出来る場所となっています。

当院では病院全体で作業療法を充実させようという意識がとて高く、数年前には病院年間目標に「作業療法の充実」を掲げられました。その成果として病棟職員の協力もあり、一日平均100人以上の患者さんが現在も継続して作業療法へ参加しております。そのため作業療法科としても常にプログラムの充実を考え、アイデアを出しながら取り組んでいます。

プログラムに関して当院は月間で計画を立てており、約10以上のプログラムを毎月行い、それ以外にも隔月で行うものや不定期に行うものなど患者さんの興味関心が継続できるような立案を行っています。特に患者さんから人気があるのは「個人OT」と呼ばれる作業活動のプログラムです。手芸やビーズアクセサリ、草細工、麻雀、ヘンプなどまだまだありますが多くの作業を準備し患者さんの選択出来る枠を広げていきながら共に取り組んでいます。また、当院の医師の勧めで約10年前にパソコンを導入しましたが、現在は8台まで増えパソコン待ちの患者さんが出るほど好評を得ています。

精神科リハでは年々対象となる疾患や身体疾患等で関わる範囲が拡大しています。当院でも常に現状を把握しながら業務を行っていますので、是非当院に見学に来てください。



鹿角元気フェスタ活動報告

大湯リハビリ温泉病院 高田 昌幸

平成27年9月13日に鹿角市市役所周辺を会場に『かづの元気フェスタ』が開催されましたので、その活動内容を報告させていただきます。『かづの元気フェスタ』は地域を知り、人と人とのつながりを深め、互いに理解しあい、安心して暮らせるまちづくりを目指すため毎年行われています。あいにくの雨でしたが多くの方々が来場され大変賑わいました。

秋田県作業療法士会は「健康広場」というブースで作業療法の紹介という事で、かづの



厚生病院、大湯リハビリ温泉病院、介護老人保健施設・鹿角微笑苑の先生方に協力していただきました。活動内容としてはビデオ上映、県北（鹿角・大館地区）各病院・施設の紹介ポスター展示、自助具の展示を行いました。見学してくださる方々は、ご自身の身体の事を話し自助具を手にとっていただいたり、ポスターを見て私たちの説明を聞いて下さったりと少しは作業療法というものに興味を持って頂けたと思います。

今回、健康広場内のブース毎にクイズが用意されておりました。秋田県作業療法士会にもクイズの問題があり「鹿角市内に作業療法士がいる病院・施設の数はいくつ？」A.5 施設以上、B.5 施設未満というものでした。みなさんは分かりますか？正解はB.5 施設未満です。答えを知り「もっと居るかと思っていた。」「意外と少ないのね。」と驚かれる方もいて、県北における作業療法士の病院・施設の少なさを痛感しました。

私は当日のみの参加でしたが、打ち合わせやポスター作製、前日準備に協力して頂いた先生方のおかげで無事終了することが出来ました。今後も各病院・施設が協力し県内に作業療法を広め、身近に感じてもらいたいと思います。以上、簡単ではありますが報告とさせていただきます。



編集後記

もう少しで 2015 年も終わりますね。秋田の厳しくて長い冬も始まりました。皆さん、今年はどんな年だったのでしょうか？

私事ではありますが、私の 2015 年はとにかく「怒涛」の 1 年間でした。わたしは今年 1 年目のヒヨッコ作業療法士です。3 月に国家試験を受け、晴れて合格することができ、今ここでこの文章を綴っています。勉強は決して嫌いなほうではありませんでしたが、それでも受験勉強はツラかったです。入職してからも、しばらくは毎日が精一杯でした。8~9 ヶ月経った今、ようやく余裕が見え、やりたいことをやれるようになってきた気がします。

そんな怒涛の 1 年間でしたが、何とんでも、人と環境に恵まれたなあとしみじみ思う 1 年間でした。色々な人に、色々な形で助けて頂きました。来年は、皆さんに少しずつ恩を返していけたらなと思います。

2016 年、皆様にとってより良い年になりますように...

編集担当 (ma-sa)

広報部から

・会員異動の際は、お早めにお知らせください

県士会ニュース「きりたんぼ」では会員の異動情報(新規入会・退会含む)を取り扱っております。正確な情報をお届けできるように、広報部一同、これからも頑張っていきますので、異動の際はお早めにお知らせください。連絡先は事務局メールアドレス has80970@snow.odn.ne.jp です。ご協力よろしくお願い致します。

・研修会情報をお知らせしております。

余白を有効活用して、県内で開催される講習会・研修会情報を公開しております。院内での小さな勉強会でも構いません。「他の病院から参加者を募り、実りある研修にしたい」「情報交換をしてお互いの技術や知識を高めたい」その思いが秋田の作業療法を発展させます。みんなで秋田を盛り上げていきましょう。情報お待ちしております。宛先はこちら a-ot-kouhou@par.odn.ne.jp

(一社)日本義肢協会登録
東北 101 号



株式会社
千秋義肢製作所

~~~~~  
義手・義足・装具・車椅子  
リハビリ用品  
~~~~~

秋田市新屋豊町 1-22

TEL 018-823-3380

FAX 018-862-5126

<http://www.sensyu-gishi.co.jp>

立位移動補助具 アクティモ NR

SAKAImed

actimoNR

早期活動を促す

新しいリハビリテーション

脳卒中発症後早期の方でも、下肢・体幹を支持保持して安全に立位姿勢を保てる設計で、早期からの立位・移動リハビリテーションに最適です。



お問い合わせ先

酒井医療株式会社

www.sakaimed.co.jp

東北支店 盛岡営業所

(青森・秋田・岩手エリア担当)

TEL: 019-656-5336

東北支店 仙台営業所

(宮城・山形エリア担当)

TEL: 022-390-6840

仙台営業所 郡山オフィス

(福島エリア担当)

TEL: 024-927-0231

リハビリテーション機器・生体現象測定装置等販売

高度管理医療機器販売事業 04-000026 号

有限会社バイオテック

代表取締役 飯塚清美

〒010-0041 秋田市広面字碓 80-1

TEL 018-837-0161 FAX 018-837-0162